

秋の一斉展示替えを行いました

先日、定期的に展示を入れ替えている古文書やお札・刀・掛軸の展示替えを行いました。それぞれ担当者が選んだ資料が公開されます。

この郷土資料展示室だよりでは展示している資料についての解説やおすすめ鑑賞ポイントなどをご紹介していきたいと思います。

今後も季節やテーマに合わせて展示する資料を決めていきますので次回の展示替えもお楽しみに。

古文書・お札

烏（カラス）文字の牛王宝印札

このお札は和歌山県の熊野速玉大社から出されている烏文字の牛王宝印札です。牛王宝印は寺社の修正会や修二会で降魔・除災の効験があるとして僧侶、参会者らに授与されていました。やがてその呪力の強いことで裏面を神仏への誓約をする起請文として活用されるようになりました。起請文は破った時には天罰が下るといい、特に熊野の牛王宝印は有名です。神使である八咫烏が本宮は88羽、那智は72羽、速玉は48羽で牛王宝印を構成しています。武将たちの間で戦いの和議や服従の証などに用いられ、違えると吉野の神使の烏が死に、本人も地獄に落ちると強く信じられてきました。また熊野比丘尼が熊野の牛王宝印を庶民に流布させると、民間では魔除け・病除け・田の虫除け・養蚕の病害除けのお札とされたようです。さて、皆さんは48羽の烏を探し出せますか？



熊野速玉大社 熊野牛王宝印札

刀 銘 依君万歳長船盛光太刀/和泉守国貞摺上爲刀

盛光は室町時代初期の応永頃に活躍した備前長船派の刀工です。室町幕府3代将軍・足利義満に厚遇された「応永備前」を代表する名工で、鎌倉時代中期に始まる長船ブランドの正系にあたります。抜群の地鉄の良さと格調高い作風で、数多くの名刀を制作しました。本刀はその盛光の太刀を茎尻から切り詰めて短く作りなおしたものです。実用的な武器であった刀は、所有者の身長に合わせるため、また戦い方の変化に対応するために長さを短くすることがありました。これを「磨上」と呼び、本刀は江戸時代の刀工、和泉守国貞により摺り上げられたとの銘が切り付けられています。今回は他に、盛光の脇差、「簾刃」で有名な丹波守吉道の刀と脇差を展示しています。

依君万歳長船盛光太刀

【表】

刀剣

【裏】

和泉守国貞摺上爲刀

掛軸



茂林寺の伝説とおとぎ話「分福茶釜」の違いご存じですか？

おとぎ話「分福茶釜」のモデルになった茂林寺。実はこのお寺の伝説ではたぬきが茶釜に変身しないです。たぬきは守鶴しゅかくという人間の僧侶として茂林寺で暮らしており、彼が用意した茶釜はいくら湯を汲んでも中身が減らないことから福を分け与える「紫金銅分福茶釜しこんどうぶんふくちやがま」と名付けられました。茂林寺には今も守鶴が残したとされる茶釜が保管されています。

この伝説をもとに巖谷小波いわや さざなみが創作したのがおとぎ話の分福茶釜です。

【おとぎ話の分福茶釜】

ある日茂林寺の和尚が手に入れた古い茶釜で湯を沸かそうとすると茶釜から足や尻尾が生えてきました。驚いた和尚は古道具屋に売り払ってしまいます。売られた茶釜はたぬきが化けており、芸を披露して稼ぐからここに置いてほしいと古道具屋に頼みます。たぬきの綱渡り芸は人気になり、古道具屋はお金持ちに。後に古道具屋は儲けの半分と茶釜を茂林寺へ返し、茶釜は宝物として扱われました。



文化資源活用班からひとこと

郷土資料展示室では縄文土器などの市内の遺跡から出土した遺物や千葉県指定文化財である佐倉牧の牧土資料の展示とともに富里市の歴史を紹介しています。ぜひ、お立ち寄りください！

※なお、今回紹介した資料は掛軸 12 月末、刀剣来年 1 月末、お札・古文書は来年 4 月末までの展示予定です。

とみらいテラス
TOMIRAI TERRACE



郷土資料展示室

富里市立図書館(とみらいテラス) 2F

【開館時間】火曜日～木曜日 9:30～18:00

金曜日 9:30～19:00

土・日・祝日 9:30～17:00

【休館日】月曜日・毎月末の木曜日

その他図書館の開館日・開館時間に準じます

【お問い合わせ】0476-93-7641 (富里市生涯学習課文化資源活用班)

ぜひ 2 階に見に来てね!!

